

研修受講を検討されている皆様へ

2021年度 ver.1

特定非営利活動法人

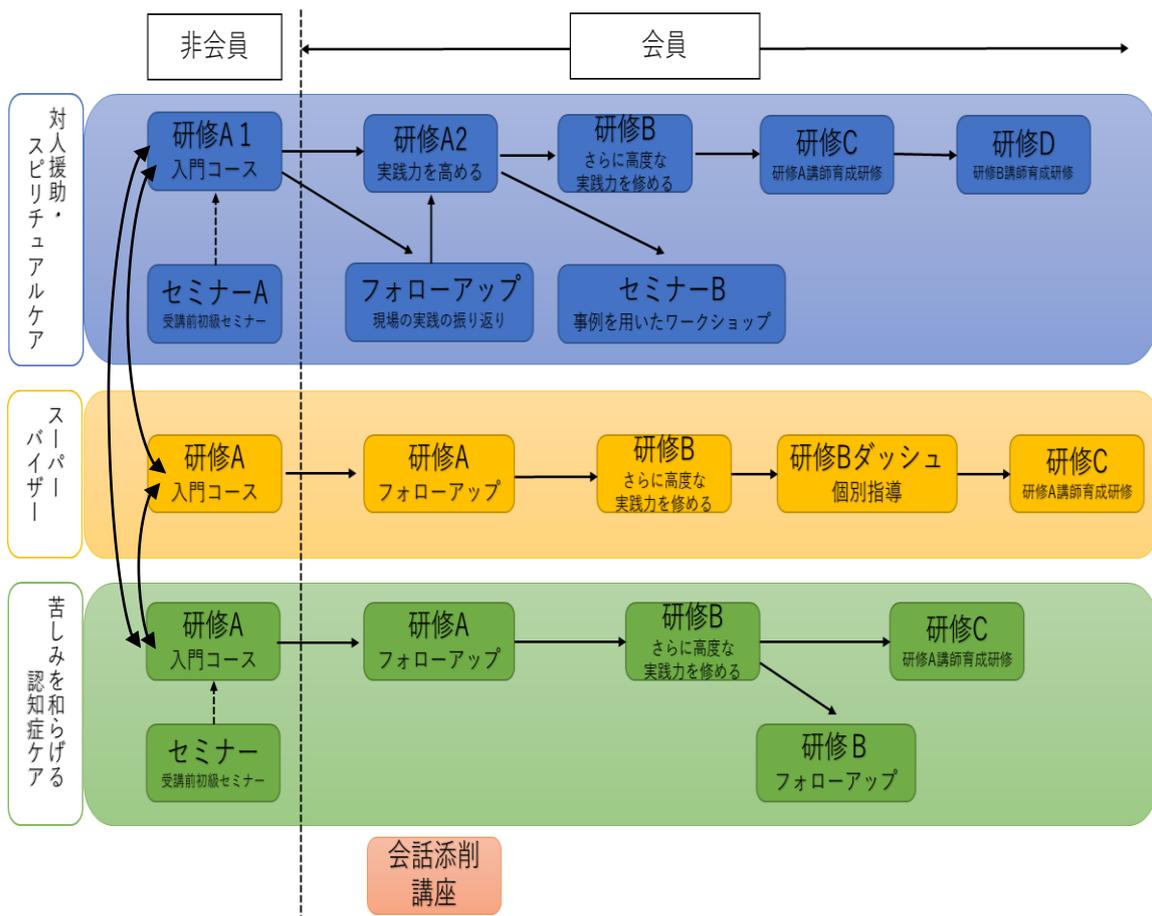
対人援助・スピリチュアルケア研究会

研修体系について

対人援助・スピリチュアルケア研究会は、日本の医療・福祉・教育分野の対人援助専門職を対象に「対人援助・スピリチュアルケア」の教育普及活動や調査研究を行うとともに、研修や助言を行い、対人援助専門職を支援することを目的としています。さらに、これら対人援助専門職の技術水準の向上、次世代人材の育成を推進することを大きな任務として活動しています。

受講者の実践現場、現場での役割、援助の対象に応じて、研修コースを選択することができ、各研修の入門コースは、会員・非会員を問わず受講することができます。

対人援助・スピリチュアルケアとは何を、なぜ、どのように実践するのかを学びたい方は、各研修の基礎でもある＜対人援助・スピリチュアルケア研修コース＞、対人援助の現場でスタッフ支援や指導に役立てたい方は＜スーパーバイザー育成研修コース＞、認知症ケアに特化して学びたい方は＜苦しみを和らげる認知症ケア研修コース＞の受講をお勧めします。



対人援助・スピリチュアルケアとは何か？まずはここから

対人援助・スピリチュアルケア研修 A1（入門コース前半）

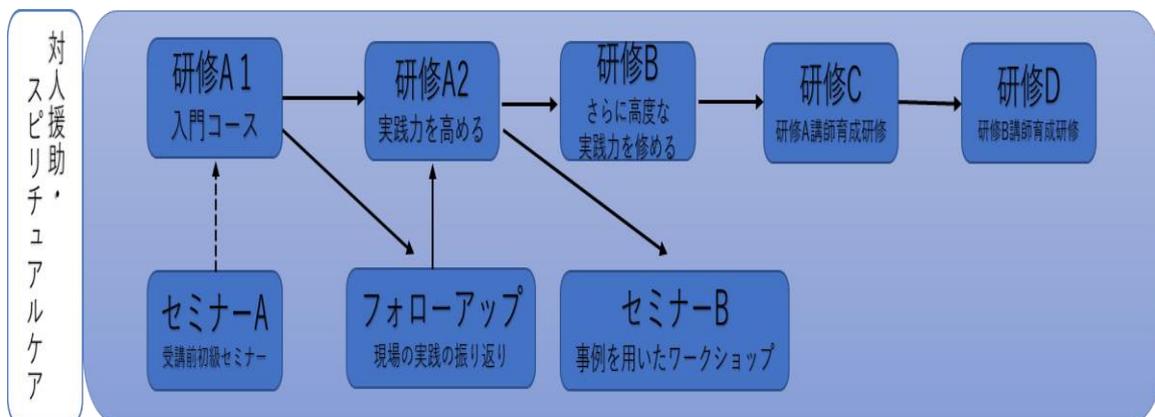
～生きる意味への援助～意味・価値・充実を学ぶ～

臨床現場で患者から「生きていても意味がない」「迷惑ばかりかけていて何のために生きているのかわからない！」と訴えられて困惑したことはありませんか？ それはスピリチュアルペインを訴えられたのです。この研修は、医療／福祉／援助専門職を対象として、がん患者のスピリチュアルペインの構造を人間存在の時間性・関係性・自律性の3次元で解明し、スピリチュアルケアの指針を示した村田(2003)の研究を基礎に、援助的コミュニケーション(傾聴)とスピリチュアルケアの理論を演習・ディスカッションで学び、がん患者や認知症高齢者へのスピリチュアルケア～[生きる意味への援助]を身につける入門コースです。

内容

- 1) 主旨説明—本ワークショップの目的、方法の説明
- 2) 対人援助論—キュア（治療）とケアの専門性—
- 3) 援助的コミュニケーション（傾聴）の演習
- 4) スピリチュアルケアの理論的解説と傾聴の要点説明
- 5) 雰囲気と関係性の研究（関係の成立・循環性・固有性から解明）
- 6) 質疑応答：各人の会話記録を比較検討する
- 7) がん患者のスピリチュアルコーピングからスピリチュアルケアへ
- 8) 受講者各自の臨床でのスピリチュアルケア会話記録の事例検討

参考文献：村田久行.(1998). 改訂増補ケアの思想と対人援助—終末期医療と福祉の現場から—. 川島書店.



対人援助の現場でスタッフ支援や指導に活かしたいなら

スーパーバイザー育成研修 A (入門コース)

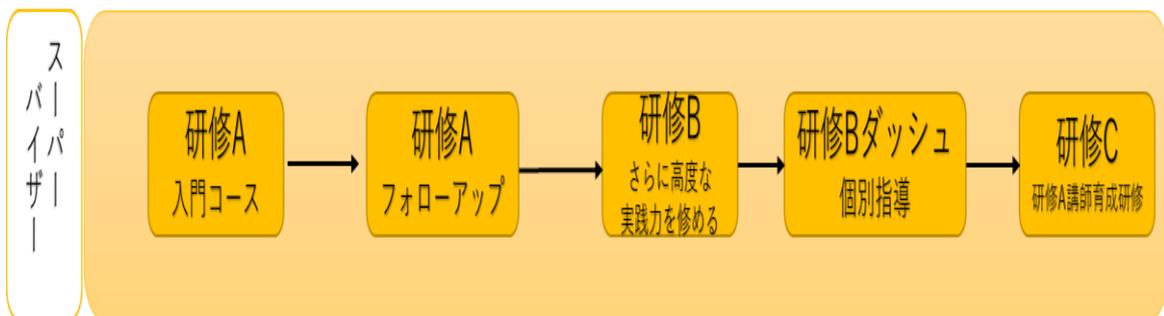
～ ‘援助者の援助’ ができる支持的スーパービジョンを学ぶ～

医療・看護・福祉・教育の実践現場で援助員は援助されていない。自分自身の援助について戸惑い、悩み、あるいは利用者、患者、学生との困難な問題に相對したとき、その職員の悩みを聴くことで援助の意欲を支えつつ、対人援助専門職性の向上を促す支持的スーパーバイザーの役割が求められています。この研修は、＜援助者を援助する＞支持的スーパーバイザーとして必要な態度・知識・技術を習得する入門コースです。

内容

- 1) 主旨説明—本ワークショップの目的、方法の説明
- 2) 対人援助論—支持的スーパービジョンと＜援助者の援助＞—
- 3) 援助的コミュニケーション（傾聴）の演習
- 4) スーパービジョンの機能—管理的・教育的・支持的スーパービジョン—
- 5) 受講者の臨床での援助的コミュニケーションを検討
- 6) 事例検討と質疑応答
- 7) 意識の志向性と対人援助関係性の研究
- 8) スーパービジョンの実際—事例検討と質疑応答—

参考文献：村田久行. (2010). 援助者の援助の援助 支持的スーパービジョンと援助の実際. 川島書店.



真の認知症ケアを知りたい、実践したいなら

苦しみを和らげる認知症ケア研修 A（入門コース）

～ごまかしもうそもつかない真の認知症ケア～

「ごまかし／かわし／すかし／うそをつき／スルーする」これらはすべて、例えば突然「家に帰る！」と立ち歩く認知症の人の「症状」と格闘する現場職員の苦しみの対応なのかもしれない。たとえそれでこの場は収まったとしても、これは再び繰り返され・・・延々と続く「症状」が現場スタッフの苦しみ(疲弊、無意味・空虚)となる。しかしこれら徘徊、物盗られ妄想、帰宅願望、介護拒否、せん妄、抑うつ等の多くは、認知症の人の“思い出せない苦しみ”の現れなのです。その認知症の人の苦しみを和らげることが、対応困難な症状を落ち着かせ、問題行動も収まることになる。これが“苦しみを和らげる認知症ケア”です。そこから見えてくるものは、ごまかしのない真の認知症ケアへの道です。もう、ごまかし、うそをつく必要はありません。苦しみのない真の認知症ケアへの道を探求しましょう。この研修は、認知症ケアに悩む援助職にとって援助の基本を学び、明日からの実践に力が得られる入門コースです。

内容

- 1) 主旨説明—本ワークショップの目的、方法の説明
- 2) 対人援助論—認知症の人の苦しみを和らげる援助—
- 3) 援助的コミュニケーション（傾聴）の演習
- 4) “苦しみを和らげる認知症ケア”の理論的解説と傾聴の要点説明
- 5) 雰囲気と関係性の研究（関係の成立・循環性・固有性から解明）
- 6) 質疑応答：各人の会話記録を比較検討する
- 7) “ふれる”で苦しみを和らげる
- 8) 受講者各自の臨床での“苦しみを和らげる認知症ケア”事例検討

参考文献：村田久行.(1998). 改訂増補ケアの思想と対人援助—終末期医療と福祉の現場から—. 川島書店.

